

専修大学公開シンポジウム「シルクロード探見」

西域へ 果てしない夢

本学講師の講演内容

松原朗 文学部教授
タクラマカンの詩人たち

岡内三眞 大学院兼任講師・早大文学部教授
トルファン ヤールホト古墓群の発掘

亀井明德 文学部教授
西域の影を唐三彩にみる



満席の聴講者を前に講演する松原教授

専修大学主催・文部科学省科研特定領域「中世考古学の総合的研究」総括班共催の公開シンポジウム「シルクロード探見」が11月6日、神田キャンパスで開催され、303号教室にほぼ満席の500人が参加した。

講師6人のうち、本学からは文学部の松原朗教授、亀井明德教授、大学院から岡内三眞(みつぎね)兼任講師の3人がそれぞれの研究を発表した。最後に総括として講師陣が参加者からの質問に答え、熱のこもったシンポジウムになった。

松原教授は、「タクラマカンの詩人たち」のテーマで講演した。同教授は、辺塞詩(へんさいし)に触れて、「辺塞詩は、西北辺境の荒涼とした風土に対する違和感の中で、異民族との軍事的衝突を危惧しながら、望郷の思いをつづる詩」と説明。盛唐(奈良時代中期)の詩人で、李白や杜甫と同時代の岑参(しんしん)という詩人を中心に紹介した。

長安(現在の西安)から西域に至る主な地名を辿り、当地にちなむ辺塞詩を解説。また安祿山の乱(755年)によって唐の国力が衰え、西域が異民族の支配下に入ると共に、辺塞詩が作られなくなると説明した。

大学院の岡内兼任講師は、「トルファン・ヤールホト古墓群の発掘」のテーマで講演した。同講師は早稲田大学文学部教授でもあり、94年から始まった同大学シルクロード調査研究所が行ったトルファン市交河古城の南に隣接のヤールホト古墓群の発掘調査の様相を紹介した。

玄奘(げんじょう)三蔵法師の話から入り、唐王朝がトルファンに西域都護府を置き、西方の文物や思想、技術の摂取に努めていたために、広範囲な交流が実現、その影響が西はギリシャ、ローマ、東は海を渡って奈良の正倉院にまで達した。同研究所が、96年車師前国時代の竖穴墓を発掘し、黄金製の冠や耳飾り、首飾り、中国鏡が出土したなど、興味深い話が続いた。

最後に講演した亀井教授のテーマは、「西域の影を唐三彩(とうさんさい)陶にみる」。

亀井教授は「唐代の墳墓に副葬されている三彩陶と、同時期につくられた隋・唐代の中原でつくられた扁壺に焦点を絞って、西域文明の影響をさぐってみよう」と講演に入った。「扁壺は高さ20センチから30センチの扁平な形の瓶。肩に紐をつける耳がついている例もあり、胴部の両面に具象的な文様が型押しされていることが多い。文様は目鼻立ちから胡人(ソグド人)の様相である全角」と紹介した。



本学以外の講師は、NHK「新シルクロード」ディレクターの豎達(げんだつ)京子さんが「トルファン灼熱の大画廊」▽中央アジア史研究者の金子民雄氏が「西域発掘競争の群像 | 大谷探検隊の業績」▽新潟大学人文学部の白石典之助教授が「モンゴルの草原にチンギス=カンの霊廟を掘る」と、それぞれのテーマで興味深く語った。

最後は、講師たちが壇上に上がり、参加者から質問もあって、有意義なシンポジウムとなり閉会した。

「市民と学生のための経営学部公開講座」

中国ビジネスと日本の海外進出に焦点

「昇竜 中国ビジネスの新展開—グローバルビジネスの光と影—」と題して、第24回市民と学生のための経営学部公開講座が11月19日に生田キャンパスで開催され、100人を超える参加者があった。岡田和秀教授の司会で進められ、魚田勝臣経営学部長があいさつをしたあと講演が行われた。



講師は、アジアビジネスの研究を続ける増田辰弘産能大学経営学部教授、アジアなど海外進出を目指すベンチャー企業を支援するネットワーク組織の牟田口雄彦・海援隊21代表幹事、空調設備を中国市場に販売、現地で職業訓練校を開設している井上弘エアコンサービス会長、中韓などアジアでの上場を推進し、海外のベンチャー企業や研究者に投資を続けている細野義彦アイリテック会長。

増田教授の「今世紀中に中国は世界一の経済大国になる。東アジアの新しい共通通貨が出来る」という予測を皮切りに、各講師から、08年の北京オリンピックに向けて急速に経済成長を続ける中国との貿易、日本の海外進出に焦点を当てた、対中国ビジネスの実体験が披露された。

続いて溝田誠吾教授のコーディネートでパネルディスカッションが行われ=写真、日・中経営手法の違い（人間関係重視、キャッシュフロー、トップダウン型経営など）、知財（特許）認識の相違、元切り上げの影響、対中国輸出製品の変化、日中関係の将来などについて意見が交わされた。

文学の森《夢》を、読む

日・中の“夢”の諸相解き明かす

エクステンションセンター公開講座『文学の森』『く夢』を、読む～夢は文学にどのように現われたか～が11月19、26の両日、生田キャンパスで行われ、延べ439人が受講した。

26日は、西條勉文学部教授が「万葉びとのく夢(いめ)―もう一つの現実―」と題して講演。夢(いめ)は、万葉集では現実の世界とつながっていて幻覚(まどろみ)ではないとされている。一方、古今和歌集では、現実とは一緒にしないという観点がある。その違いを和歌の解釈を交えて分かりやすく解説した。

続いて、廣瀬玲子同教授が「夢の中の真実―中国の古典から―」と題して講演。荘子の「胡蝶の夢」の話や、元の雑劇(元曲)のなかの夢を紹介し、限りある現実と対照的にとらえられる夢について解説した。



万葉びとの夢について解説する西條勉教授



中国古典に登場する夢について話す廣瀬玲子教授

第8回LLワークショップ

「外国語教育の実践」

学生、院生、高校教諭らが出席

「専修大学における外国語教育の実践」を統一テーマとした「第8回LL研究室ワークショップ」が11月19日、生田キャンパスで行われた。本学の教員や教育を学ぶ学生、大学院生、高校の外国語教員ら55人が出席し、ワークショップや記念講演などを聴講した。



サンドラ・フォトス実行委員長が司会を務め、三浦弘室長らのあいさつの後、ウィリアム・ボレッタ教授によるワークショップ、高橋秀夫千葉大学教授による記念講演を開催。A～Dの各LL教室で、本学の11教員による外国語関連授業の授業実践報告も行われた。

法学部主催学術講演会

「改正独禁法と競争政策の動向」

公正取引委員会事務総長を経て、京都大学法学部客員教授、公正取引委員会委員を務める山田昭雄氏を招いて、法学部主催の学術講演会「改正独禁法と競争政策の動向」が、11月9日に神田キャンパスで開催され、学生、企業人など約100人が聴講した＝写真。



山田氏は近年、公団の入札談合事件、商品の不当表示、間カルテルなど、競争を阻害する行為が数多く表面化していることから、公正取引委員会の権限強化の必要性を強調した。

不正行為を防ぐため、05年4月に公布された「独占禁止法」の改正法について解説し、「公取委」機能の強化、犯則調査権限の導入、課徴金制度の見直しなどにより、厳しいチェック体制が敷かれることを明らかにした。

李松・北京大教授が講演

「明代道教壁画の新資料」

近年、中国固有の宗教である道教に対する関心が高まっているなか、去る11月4日、神田キャンパスで、北京大学芸術学系の李松教授による「山西省明代道教壁画の新資料とその初歩的検討」と題する講演会が日本道教学会大会準備委員会の主催で開催された。

講演会では中国の山西省の道観(道教寺院)に残された16世紀頃の未知の壁画が世界で初めて紹介・討論された。李松教授は道教美術に関して中国政府の重点プロジェクト研究を担当、現地踏査を進めている。本学の客員研究員として来日した。会場には各地の大学の研究者ほか、およそ60人が参加、スクリーンに写し出された鮮明な道教壁画と、その解説に感嘆した。

日本ではまだこの方面の研究が進んでいないだけに、今後の道教美術の研究において画期的な講演会となった。

土屋 昌明(つちや・まさあき) = 経済学部教授。主な担当は中国語。



講演する李松教授(円内は通訳を担当した土屋教授)

「やさしい英語による経済学講座」

リム博士（ワイカト大）が講演

シリーズ「やさしい英語による経済学講座」（第125回国際交流特別講演会）の第2回公開講座が11月19日、生田キャンパスで開催された。講師のスティーブ・リム博士（経済学部客員教授、ワイカト大学経済学科シニアレクチャーラー＝写真）は、オークションでの美術品購入について、注意すべき点を講演した。

同講座は、毎回異なった経済テーマを分かりやすい英語で講演するシリーズで、中高年にも好評。当日は約50人が参加し、リム講師に質問を投げかける参加者が多く、和やかな雰囲気だった。

